

2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年5月10日

上場会社名 東和ハイシステム株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4172 URL <https://www.towa-hi-sys.co.jp/>  
 代表者（役職名） 代表取締役（氏名） 石井 滋久  
 問合せ先責任者（役職名） 経理部部长（氏名） 児玉 祐輔 (TEL) 086-243-3003  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第2四半期の業績（2022年10月1日～2023年3月31日）

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	1,281	0.5	333	△7.6	421	14.2	292	17.4
2022年9月期第2四半期	1,275	10.2	360	8.7	369	23.9	249	23.1
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年9月期第2四半期	131.37		—					
2022年9月期第2四半期	111.85		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	4,254	3,761	88.4
2022年9月期	4,045	3,589	88.7

(参考) 自己資本 2023年9月期第2四半期 3,761百万円 2022年9月期 3,589百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	35.00	—	43.00	78.00
2023年9月期	—	0.00			
2023年9月期(予想)			—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年9月期の業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,331	5.2	343	△17.5	378	△20.4	264	△16.3	118.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年9月期2Q	2,228,000株	2022年9月期	2,228,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2023年9月期2Q	49株	2022年9月期	一株
------------	-----	----------	----

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年9月期2Q	2,227,985株	2022年9月期2Q	2,228,000株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1.当四半期決算に関する定性的状況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、行動制限の段階的緩和等によるウィズコロナへのシフトが進められ、一部では景気の持ち直しが期待されたものの、依然として十分な回復には至っておりません。また、世界的なインフレ圧力や資源価格の上昇等、依然として世界経済の減速による下振れリスクが顕在化しており、先行き不透明な状況が続いております。

歯科医療業界におきましても、長引くコロナの影響や電気料金の値上げ、歯科用貴金属等の高騰により不透明な状況が続いており、これまで以上に医療従事者の確保など、より効率性を高めた経営が必要となっております。

このような状況に対応するため、政府は「より効率的かつ効果的で良質な医療サービス」の提供を目指して医療DX推進本部を設置、具体的な施策として1月から電子処方箋の運用開始や4月から医療機関におけるオンライン資格確認導入の原則義務化が実施されるなど、歯科医療業界におきましてもIT活用のニーズが益々高まっていくものと考えられます。

そのような中、当社は2022年2月15日、音声認識対応の歯科医院向け電子カルテシステム開発へ向け、日立との協創開始を発表、その後、複数のモニター医院での稼働結果を詳細にヒアリングした上で、随時、改善改良を重ねてまいりました結果、2023年3月9日、AI・音声電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit AI-Voice」発売に至りました。具体的には、当社の主力商品である歯科電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit XR-10i」に日立AI音声認識技術や音声処理ソフト「Recware」を連携・融合することで、歯科医師が診療中に手袋を外さなくても音声だけで電子カルテの作成ができます。さらにスマートグラスにより視線を少し動かすだけで120インチ相当の大画面が広がり、近くにモニターやiPadがなくても音声入力の内容が確認できます。歯周病検査においても、検査をしながら音声入力で結果を記録できることから、歯科医師または衛生士1人で歯周病検査を完結することが可能となります。また、患者さまとの会話記録も音声データで電子カルテに保存できます。

歯科医療分野において、日立AI音声認識技術と音声処理ソフト「Recware」を活用した音声による電子カルテ入力や画面操作は業界初であり、これにより歯科医師、衛生士の業務が大幅に効率化され、コミュニケーションの時間が増えることで患者さまの満足度向上に繋がる等、永年の夢であった院内業務のDX実現が可能となりました。

当社は事業理念である「サポート無くして販売なし、お客様の笑顔お客様の満足が私たちの喜び、顔が見え、心が触れ合う」を推進し、「親しまれ・愛され・信頼されるサポート」をモットーに、これら一連の活動を、主力商品である歯科電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit XR-10i」販売へと繋げてまいりました。その結果、経済環境の逆風下でも、当第2四半期累計は増収増益で売上高は1,281,833千円(前年同期比0.5%増)、営業利益は333,264千円(前年同期比7.6%減)、経常利益は421,936千円(前年同期比14.2%増)、四半期純利益は292,686千円(前年同期比17.4%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産・負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は4,254,208千円となり、前事業年度末と比較して208,454千円増加いたしました。

#### a. 流動資産

流動資産は2,284,095千円となり、前事業年度末より23,374千円増加いたしました。主な内訳は、現金及び預金の減少138,419千円と、売掛金の増加267,106千円、商品の減少114,285千円であります。

#### b. 固定資産

固定資産は1,970,112千円となり、前事業年度末より185,080千円増加いたしました。主な内訳は、ソフトウェアの増加113,704千円、ソフトウェア仮勘定の増加33,000千円、有価証券の購入に伴う投資有価証券の増加25,850千円であります。

#### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債は492,797千円となり、前事業年度末と比較して36,843千円増加いたしました。

#### a. 流動負債

流動負債は447,798千円となり、前事業年度末より39,381千円増加いたしました。主な内訳は、買掛金の減少21,035千円、未払法人税等の増加57,576千円、未払消費税等の増加22,320千円であります。

#### b. 固定負債

固定負債は44,998千円となり、前事業年度末に比べて大きな増減はありませんでした。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は3,761,410千円となり、前事業年度末と比較して171,611千円増加いたしました。前事業年度に係る配当金が95,804千円生じた一方、四半期純利益を292,686千円計上したことにより利益剰余金が196,882千円増加したことによるものであります。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は1,350,160千円となり、前事業年度末より442,568千円減少いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって得られた資金は128,706千円(前年同四半期は132,908千円の収入)となりました。これは主として、税引前四半期純利益の獲得による421,936千円の収入、減価償却費の計上28,411千円、棚卸資産の減少114,285千円があったものの、法人税等の納付による85,714千円の支出及び売上債権の増加267,106千円があったことによります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって支払った資金は171,246千円(前年同四半期は430,703千円の支出)となりました。これは主として、投資有価証券の取得による支出226,200千円、投資有価証券売却による収入242,453千円、有形固定資産の取得による支出10,083千円、無形固定資産の取得による支出159,362千円があったことによります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって支払った資金は95,879千円(前年同四半期は144,773千円の支出)となりました。これは主として、配当金95,802千円の支出があったことによります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の業績予想につきましては、2022年11月11日に「2022年9月期決算短信[日本基準]（非連結）」にて公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

当第2四半期累計期間では業界初となるAI・音声電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit AI-Voice」の発売を3月9日より開始、さらに全国67,600医院の歯科診療所へ向け、日立のAI・音声認識技術を活用して1人で歯周病検査が完結できる画期的な商品、AI・音声歯周病検査システム「P-Voice Dental Spirit」（以下 P-Voice とする）を開発し、4月18日より発売開始いたしました。

健康長寿社会を迎え、歯の早期予防・早期治療への健康意識が高まる中、2022年6月、国の方針として「国民皆歯科健診」制度の導入が示されました。その中で、歯科衛生士不足という社会問題と患者さまの検診の増加への対応不足という課題解決に向け、多くの歯科医院のご要望に応じてP-Voice を新たに独立したシステムとして開発いたしました。

このP-Voice は両手で歯周病検査をしながら発話するだけで検査結果の入力ができます。さらにスマートグラスにより、近くにモニターやiPadがなくても音声入力や入力内容の結果を検査中に確認できます。これにより、歯科医師または衛生士が1人で歯周病検査を完結することが可能となり、患者さまの定期メンテナンス促進にも繋がることとなります。当社は、このP-Voice を起点に成長戦略として、①更なる営業基盤の拡充、②販売チャネルの拡大、③リモートサポートメンテナンスの構築により、主力商品である歯科電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit XR-10i」およびAI・音声電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit AI-Voice」の拡販へと繋げることで、中期的には、前期業績の1.5倍程度に相当する売上高33億円、経常利益7億円、純利益4億円を目指して、更なる取り組みを強化してまいります。そして、歯科医院の業務効率・生産性向上に貢献すると共に歯科業界にとって最も大きな課題であるDX実現を支援してまいり所存であります。是非ともご期待ください。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,798,580	1,660,160
売掛金	143,627	410,733
商品	236,743	122,458
前払費用	35,485	27,715
未収入金	1,665	2,212
預け金	44,618	60,589
その他	—	224
流動資産合計	2,260,720	2,284,095
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	339,997	331,291
構築物（純額）	2,330	2,239
車両運搬具（純額）	14,693	12,246
工具、器具及び備品（純額）	26,730	32,357
土地	349,929	349,929
有形固定資産合計	733,681	728,064
無形固定資産		
ソフトウェア	82,206	195,911
ソフトウェア仮勘定	46,538	79,538
その他	2,122	2,070
無形固定資産合計	130,867	277,519
投資その他の資産		
投資有価証券	854,460	880,310
敷金及び保証金	33,156	35,812
繰延税金資産	31,332	46,200
その他	1,533	2,205
投資その他の資産合計	920,482	964,528
固定資産合計	1,785,032	1,970,112
資産合計	4,045,753	4,254,208

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	52,901	31,866
未払金	215,511	215,210
未払法人税等	85,714	143,290
未払消費税等	12,264	34,585
預り金	6,220	5,038
賞与引当金	11,119	11,483
その他	24,685	6,324
流動負債合計	408,417	447,798
固定負債		
退職給付引当金	47,536	44,998
固定負債合計	47,536	44,998
負債合計	455,953	492,797
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	343,080	343,080
資本剰余金	297,480	297,480
利益剰余金	2,955,957	3,152,840
自己株式	—	△77
株主資本合計	3,596,517	3,793,322
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△6,717	△31,911
評価・換算差額等合計	△6,717	△31,911
純資産合計	3,589,799	3,761,410
負債純資産合計	4,045,753	4,254,208



## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2021年10月1日 至2022年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自2022年10月1日 至2023年3月31日)
売上高	1,275,511	1,281,833
売上原価	299,173	330,631
売上総利益	976,338	951,201
販売費及び一般管理費	615,603	617,937
営業利益	360,735	333,264
営業外収益		
受取利息	6	6
有価証券利息	7,375	9,572
受取手数料	958	300
投資有価証券売却益	—	78,333
その他	394	459
営業外収益合計	8,733	88,671
経常利益	369,469	421,936
特別利益		
固定資産売却益	3,517	—
特別利益合計	3,517	—
税引前四半期純利益	372,987	421,936
法人税、住民税及び事業税	122,962	133,081
法人税等調整額	816	△3,832
法人税等合計	123,779	129,249
四半期純利益	249,208	292,686

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	372,987	421,936
減価償却費	22,280	28,411
受取利息及び受取配当金	△7,381	△9,579
売上債権の増減額 (△は増加)	△143,479	△267,106
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△84,663	114,285
仕入債務の増減額 (△は減少)	25,556	△21,035
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△78,333
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△442	364
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△343	△2,537
固定資産売却損益 (△は益)	△3,517	—
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,816	22,320
その他	45,640	△3,884
小計	224,821	204,841
利息及び配当金の受取額	7,381	9,579
法人税等の支払額	△99,294	△85,714
営業活動によるキャッシュ・フロー	132,908	128,706
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	△387,210	△226,200
投資有価証券の売却による収入	—	242,453
有形固定資産の取得による支出	△22,709	△10,083
有形固定資産の売却による収入	3,538	—
無形固定資産の取得による支出	△24,229	△159,362
預け金の預入による支出	—	△15,971
その他	△93	△2,082
投資活動によるキャッシュ・フロー	△430,703	△171,246
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	—	△77
配当金の支払額	△144,773	△95,802
財務活動によるキャッシュ・フロー	△144,773	△95,879
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△442,568	△138,419
現金及び現金同等物の期首残高	1,849,858	1,488,580
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,407,290	1,350,160

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。